

## 2026年度 大学院入試（11期）（児童文学専攻）

## 博士課程（前期） 「専門科目」

（2025年11月1日実施）

合否判定の方法 《外国語》《専門科目》《口述試験》

外国語（100点）、専門科目（200点）および口述試験（4段階評価）により評価する。

合否判定の基準 外国語：50点以上、外国語と専門科目の合計得点：180点以上、口述試験：C以上のいずれも満たすこと。

## 《専門科目》（200点満点）

## 【一】 60点

出題意図

児童文学または児童文化の歴史に関するテーマについて、自らの見解を論理的かつ説得力をもって論述できるか

正答例

「児童文学の父」と呼ばれるジョン・ニューベリーを例に児童文学というジャンルの誕生について説明する、巖谷小波のお伽噺を例に伝承文学から近代児童文学への質的变化について述べるなど。

## 【二】 40点（10点×4問）

出題意図

児童文学または児童文化に関する基本的な知識を有しているか

正答

①ク ②カ ③エ ④キ

## 【三】 100点

出題意図

選択したテーマについて論理的に考察し、自らの見解をわかりやすく表現できるか

正答例

問1 想定読者に関する特徴（関連語彙：「10代」「思春期」「子どもでもないが大人でもない」など）、テーマに関する特徴（関連語彙：「アイデンティティ」「職業選択」「恋愛」「性」「大人や社会との関係」など）、内容・表現・受容状況に関する特徴（関連語彙：「同時代性」「表現手法の幅広さ」「不読率」「読者層の拡大」など）等を明らかにしたうえで、このジャンルに期待されている役割（関連語彙：「自己理解」「他者理解」「成長」「社会への架橋」「大人による若者理解」など）について説明する。

問2 ライトノベルの特徴とされる諸要素（関連語彙：「エンターテインメント小説」「若年層向け」「マンガ・アニメ風のイラスト」「キャラクター」「レーベル」など）を念頭に、任意の定義を設定する。その上で、たとえば、ライトノベルが複数のジャンル、メディア、文化の要素を兼ね備えた「複合的な文化現象」といえる点、メディアミックスを通じて他／多メディアへと展開している

点、現代の「文学」「小説」「読書」のあり方に影響を与えている点、翻訳出版等で海外に広がりを見せている点などにふれながら、現代日本文化の一つとしてライトノベルを位置づけ、どのような文化的価値を持つと見なすことができるのかについて説明する。

問3 絵本や児童文学等に登場して愛されているクマや、ぬいぐるみやグッズで人気の高いクマのキャラクターの中から具体例をとり上げ、熊の生態（出産や育児にかかわること、母子の関係、二足歩行等）や造形（頭が丸い、手足が短い、ムクムクしている等）を活かして擬人化が施されていること、それによって愛すべき特色（優しいと感じる母子の絆、かわいいと感じる子どもの体型や動き、安心感をもたらす触覚的暖かさ等）が表現されていることを述べ、クマの擬人化が、絵本・児童文学・ぬいぐるみ等の媒体に私達が求める根源的な感覚と結びついていることを指摘するなど。

問4 昔話の定義（関連語彙：「口承」「民間伝承」「おとぎ話」など）を踏まえ、昔話の特徴（関連語彙：「一定の形」「語り口の法則」「創作の物語との違い」など）を明らかにしたうえで、絵本化あるいは映像化された昔話の具体例をあげて、その課題や問題点について述べる。

問5 メディアの違い（関連語彙：「紙」「電子」）が読書する際の身体性にも影響を及ぼすこと（関連語彙：「ページをめくる」「タップ・スクロールする」「片手操作」など）を明らかにした上で、とりわけ日本では紙で横読みするのが主流であったところ、近年では電子で縦読みする機会も増え、読書行為が多様化していることについて述べる（関連語彙：「海外マンガ」「韓国マンガ」「ウェブトゥーン」「フルカラー」「アプリ」「プラットフォーム」など）。また、読む方向によって作画技術や演出手法が異なるため、たとえ似たようなシーンであっても読者に与える印象に違いが生じることについて説明する（関連語彙：「時間経過」「視線誘導」「効果音」「オノマトペ」など）。補足的にマンガを読むにあたっての入手方法の違いや、読了後の作品の管理方法の違い等について述べてもよい。